

Eureka VII

六年制通信 No.36 令和3年2月26日(金)号

今年はできます学年末試験

もう一年になるんですね。ことあるごとに時の流れの速さに飽きもせず驚いていますが、このコロナ禍の一年は本当にあっという間に過ぎました。ちょうど1年前、安倍元総理の会見で全国一斉休校が報じられたとき、まだ三重県は感染報告0でした。何で全国なのかとは思いましたが、その時はまだ4月の入学式以降は通常に戻るものと楽観していました。学年末試験は中止しましたが、私が生徒なら「え〜っ」とか言いながら心の中でガッツポーズして終わりですわな。オリンピックも予定通り開催するものと思っていましたが、さて、どうなることやら。

ただ、1年前の会見を聴いていて非常に嫌な感じはしていました。それは日本人の目に見えて弱いところをまた何度も見聞きすることになるという予感です。「右に倣え」が極端に好きというか病的に倣い過ぎるといふか、みんなで同じ方向に向かないと、しかも右と言われたら直角に体ごと右に向かないと落ち着かない民族なのですよ、私たちって。そして、右を向かない人だけでなく斜めに右を向いている人も攻撃します。残念ですがそういうところがあります。ワイドショーでは、コロナに罹患した人々への差別や攻撃を取り上げていましたが、これもまた似たようなことが何度も繰り返される光景です。最近は匿名性が高くなって、くだらんアホ（は昔からいたのですが匿名の陰に隠れるさらなるアホ）が増えましたから余計陰湿に感じます。私が **Educated Action** と言ったのは、こういう、いかにも教育を受けていない愚かな人々と同じ行動を君たちにとってほしくないからです。個人の安全のためにすべきこと、社会の安全のために気をつけること、そして右を向くにしても人によって体ごと向くことができる人、斜めにならざるを得ない人、顔だけしか向けられない人、様々な人がいるはずで、それを自分の基準で判断してはいけないということ、それらを学んでほしいと思います。コロナ禍はいろんなことを教えてくれます。君たちは私たちの青春時代にはなかった貴重な出来事に遭遇しています。少なくとも、この世の中、ある日突然何があるかわからないということ、それが自分の生活に非常に大きな影響を与えるということ、それらを君たちはその若さで知りましたね。いい勉強です。学校がいかに大切な存在であったか、それにも気づいてくれましたよね。

私は風邪も引かないし花粉症でもないのでマスクをする習慣をつけるまでモタモタしました。それに、私らの世代は換気にあまり気を配らないのですね。昔から襖や障子の家には隙間風が入るものと決まっていたので、どちらかというとききちんとドアを閉めるようにきつく躡けられました。自動ドアなんてないですから、自分で閉め

ないと勝手に閉まってくれません。君たちは知らないでしょうが「下種（げす）の一寸」という言葉があります。「下種の一寸、のろまの三寸、馬鹿の開けっ放し」と言っていて、戸や障子の閉め残し方に品格が表れるとしたもんです。ですから、実を言うとして今でも私は部屋を出るときドアを少し開けておくことに抵抗があります。このあたりは年代によって感覚が違うのでしょうかね。私だけかもしれませんが…。

さて、君たちの **Educated Action** のおかげです。未だコロナによる休校がありません。ありがとうございます。礼を言います。秋にはひょっとしたら国から全国一斉休校の指示があるかもしれないと思っていましたが、大学入試の時期にさしかかってきたので、年が明けてからはもう絶対に休校措置はないと思っていました。ですから、令和3年になってからは休校の心配はなく、めでたく、学年末試験を受けることができるわけです。よかったですね。

学年末試験は年度の最後のテストです。一年間の勉強の成果が試される、学年の締めくくりの大切なテストですからしっかり準備していい結果で終わらしましょう、と先生方は言いますね。君たちもそう思うことでしょうか。そう言えば、よく話題にされますが「いい始まり」と「いい終わり」とでは、どちらの方がいいのでしょうかね。もちろん両方がいいに決まっていますが、いつものように、諺はちゃんと二通り用意されています。「終わりよければすべてよし」(All is well that ends well.) と「始めよければ終わりよし」(A good beginning makes a good ending.) です。しかし、これ、いい始まりがいい終わりにつながり、終わりがよければ全てよしと言っているのですから、始まりがよければすべてがいいわけですよ。しかし、君たちの「始まり」とは一体いつのことなのでしょうね。そして「終わり」とはいつのことを言っているのでしょうか。私はこういう迷い方をするときには「除日に講を起こす」を思い出せばいいと思っています。そう、勉強しようと思ったまさにその時が始まりということですね。では「いい始まり」になりますよう、祈っています。

今週のおすすめ

・アラン 『幸福論』 白井健三郎訳 (集英社文庫)

『幸福論』と言えば、ラッセル、ヒルティ、アランですね。ラッセルは角川文庫の堀秀彦訳、ヒルティは同じく角川文庫の秋山英夫訳。ヒルティはドイツ語、アランはフランス語、ラッセルが英語というわけで、私たちの世代は大学入試や高校の演習などでラッセルの文章を読まされたものです。難しいのですが、これが読めれば実力がつくというのが高校生にもわかる立派な英文です。

アランの『幸福論』は「友情」「忍耐」「不機嫌」「予言」など詳細な目次が93もあります。もともと原題が『幸福に関する語録』ですから。今からちょうど100年前くらい前に出版され、今なおフランス人に読まれているようです。

6年生の諸君が卒業しようとしています。私は卒業生の上に挙げた3人の幸福論を読んでほしいと思っています。そうそう、パスカルの『パンセ』もね。

BGMは長渕剛の乾杯でした…。